

## JGS宝石勉強会テーマL レポート

／JGSニュースレター2017年12号（1月16日発行）

JGS 理事 藤田 益久

「ファンシーカラーダイヤモンド～その魅力と価値～」のテーマで、12月14日と15日の両日、JJA 会館にて JGS 宝石勉強会が開催された。14日は45名、15日は30名と、それぞれの会場の広さに合わせて設けられた定員一杯の受講者数となった。



まずはじめの講義では、中央宝石研究所の北脇裕士博士により、ファンシーカラーダイヤモンドの色の起源の説明と見方、世界の逸品の紹介から産出地、産出量、合成・処理石など最近の状況の説明へと進められた。ファンシーカラーダイヤモンドも無色のダイヤモンドと同じくタイプⅠ・タイプⅡに分けて考えることで、その色の起源から産出地の理解へと繋げることができる。また、

カラーの処理の方法もタイプに分けた色の起源の理論が基となって開発されてきた。そして、ファンシーカラーダイヤモンドのグレーディングが始まってからファンシーカラーのカテゴリーが **Faint, Very Light, Light, Fancy Light, Fancy, Fancy Intense, Fancy Vivid, Fancy Dark, Fancy Deep** と細分化され表記されている。このカラーのカテゴリーの位置づけに混乱している人も多いと思われるが、カラーダイヤモンドスケールの図に沿った丁寧な説明を受けることができたので、それぞれにファンシーカラーの表示を頭の中で整理することができたと思う。サンプルの観察に入る前に、新たな興味をかきたてられて講義が締めくくられた。

宝石品質のダイヤモンドの産出量の中、ピンクは **0.015%**、ブルーは **0.001%** というように、非常に希少性の高いファンシーカラーダイヤモンドであるが、今回の勉強会でのサンプルは76セット160個あまりに上った。イエロー、グリーン、ピンク、レッド、ヴァイオレット、ブルー等のほとんどすべての色相。ライト、インテンス、ヴィヴィッド、ディープ、ダークとほとんどをカバーする彩度・明度のもの。0.1ctのものから、1ct、2ct、3ct、5ctのものから13ctの大きさのものまで、二度と集めることができないと言えるほどのサンプルを揃えることができた。これは、ファンシーカラーダイヤモンドで国内を代表する協力企業、会員企業、個人がJGSの活動に理解・

賛同してそのコレクションを提供いただいたものである。



サンプルの観察は、①色の名称を比較検討する、②価格(/ct 卸価格)を考える、を観察点として、1セットあたり2分間で全セットを手にとって観ることができた。

一通りのサンプル観察後、その中から18個が抽出され、全員で価格のアンケートを採った。そして、抽出されたそれぞれのダイヤモンドの価格の意見を表にまとめ、オーナー企業による参考卸価格が紹介された。自分の付けた価格と参考価格の0の単位がひとつも、時にはふたつも違ったりしていたケースもあった。1ctの **Fancy Vivid Purplish Pink** で **6,000** 万円の参考卸価格のものをサンプルとして自分の手にとって値踏みをする、このような機会は大規模なショーに行ってもなかなかできることではない。



今回の勉強会では、観たいと思ってもめったに観ることができないファンシーカラーダイヤモンドの逸品を、ひとところで同時にしかも多数観ることができた、幸運とも言える機会であった。